令和8年度事業計画

Ⅰ 事業実施概要

地理空間情報は社会を支えるインフラの一部ですが、その土台の設計が充分に整理されているとは言えない状況です。地理空間情報を提供する地図は、「誰がどのように決めるのか」、「地図データの品質に誰が責任を持つのか」、「地図の更新ルールはそのサービスに適切なのか」。

データを整え、意味づけし、使える形に仕上げる「編集・調製の知」により、適切な地図が使われるための社会基盤の中心となるよう

①地図調製技術の体系化

②地理空間技術（データ・GIS・3D・API 等）の構造整理と標準化

③官民をつなぐ中間支援と人材育成

の活動に取り組んでいきます。

Ⅱ 会議関係

1. 総会

定款第13条に定める定期総会を年1回開催する。その他必要がある場合に開催する。

2. 理事会

年2回（5月及び11月を予定）開催する。その他必要がある場合に開催する。

3. 業務執行理事会

対面による業務執行理事会を年7回（2月、3月、4月、7月、9月、10月、12月を予定）開催する。その他必要がある場合に開催する。また、必要に応じて書面等による業務執行理事会を適宜開催する。

Ⅲ 地調協の取組

①関係団体及び会員社が開催する、地図展・イベント等への積極的な協力

②機関誌「地図ジャーナル」と「地図ジャーナル online」の発行及び情報提供と広報活動

③地調協のホームページをリニューアルし、会員社との情報交換と広報活動の強化

④地図の普及・啓発活動として、出前講座や学校教育に関する情報提供

⑤ジオ展への出展による情報収集及び広報活動、会員の勧誘等

Ⅳ 委員会別実施計画

1. 技術委員会の実施計画（22-23 頁参照）

2. 広報企画委員会の実施計画（24-25 頁参照）

技術委員会 令和8年度活動計画

― 技術スタックとバリューチェーンを共通言語とした人材育成・価値創出 ―

1.【年度ミッション】

DX 下で分断されがちな技術・人材・事業・公共性を「共通言語」と「具体的アウトプット」に整理し、地図産業の持続性に接続する。

①【第 1 四半期｜共通言語の確定・可視化】

・技術スタック一覧（確定版）
・バリューチェーン分析（合意版）
・「DX 時代の中間層人材像」定義
・地図ジャーナル特集（中間整理）
位置づけ…「議論の土台を揃える」、「外部と共有可能な言語にする」
成果物…「技術委員会資料」、「地図ジャーナル特集号」

②【第 2 四半期｜概念の教育化・普及】

・技術委員会主導セミナー（概念編）
・技術スタックで読み解く DX
・編集工程の再定義
・若手・中堅向け勉強会（導入編）
位置づけ…「中間層人材の裾野拡大」、「技術委員会の翻訳機能の可視化」
成果物…「セミナー資料」、「録画・要約コンテンツ」

③【第 3 四半期｜実務接続・事例化】

・実装寄り勉強会／WS（応用編）
・編集判断と自動化の切り分け
・API／POD 時代の責任と品質
・会員企業による事例発表
位置づけ…「抽象議論を実務に接続」、「マネタイズ可能性の検証」
成果物…「事例集」、「会員向け限定資料」

④【第 4 四半期｜成果定着・次年度接続】

・技術委員会報告書
・地図ジャーナル続編／寄稿
・学界・シンポ発表検討
位置づけ…「今年度成果の可視化」、「次年度テーマへの橋渡し」
成果物…「技術委員会年次報告」、「次年度検討テーマ案」

2.【技術委員会の立ち位置】

- 実施主体ではなく 設計・整理・接続の主導
- すべての活動を技術スタック／バリューチェーンと対応付けて整理

①技術スタック × 年度イベント対応表

技術スタック × 活動対応マトリクス（案）

技術スタック層	主な論点	対応イベント	主なアウトプット
測量・取得	精度・更新頻度	技術委員会資料	前提整理
基盤データ管理	DB・履歴管理	ジャーナル特集	中間整理
編集・調製	判断・総描・責任	セミナー（概念編）	人材育成
自動編集・DX	人／機械の切り分け	勉強会・WS	実務知
提供（API・POD）	品質・正規性	応用編勉強会	事例共有
利活用	防災・教育	公開セミナー	社会接続
ガバナンス	公共性・責任	技術委員会報告	制度接続

- すべての企画に「どの技術スタック層を扱うか」を明示
- 抽象論・実務論が混線しない
- 技術委員会の議論が成果物に変換されていることを可視化

技術委員会は、技術スタックとバリューチェーンを共通言語として、議論を人材育成・実務・成果に翻訳する役割を担う。

企画・広報委員会　令和8年度活動計画

1．地図ジャーナル Online を中心とした情報発信を確立する

2．年度ミッション

① 委員各位に地図ジャーナル Online の記事取材・執筆者としての自覚を促す
② 会社・個人にとって、単独では解決しがたい業務上の課題の抽出を行う
③ ②で遡上にあがった案件から、今年度取り扱う案件を複数決定
④ 委員全員を③で定めた案件に振り分ける
⑤ 地図ジャーナルとして調査・取材活動を行う
⑥ 論説記事にまとめ、地図ジャーナル Online で発表
⑦ 以上の活動において、より重要と思われる案件を本誌地図ジャーナルの特集としてまとめる
⑧ ①～⑦に加え、委員においては、日ごろの各会員社の活動を地図ジャーナル Online 上に気軽に投稿できる環境を作る（月分担制度などを検討）

3．背景

① 委員各位、特に若手からの「日頃の営業活動などでは立場上調べえない事柄について、調査・取材できる環境が欲しい」という意見に協会として応える
② 技術・社会的環境変化に対する客観的ば分析行為は、必ず日常の「現業」に役立つとともに、プレゼンテーション能力の向上に寄与できる

4．スケジュール

第1四半期
① 現行の Web サイトの見直しと地図ジャーナル Online との役割分担の確定
② 会員各社の課題抽出
③ 課題別に委員配置
④ 調査・取材計画立案

第2四半期
① 調査・取材

第3四半期
① 地図ジャーナル Online への論説記事発表

第4四半期
地図ジャーナル本誌編集・発行

※なお、対象案件によっては第3四半期を待たずに地図ジャーナル Online で発表する

以上の活動には、他委員会委員の参加を歓迎する。

5．その他の活動

① 「くらしと測量・地図展」は中止のため、関連活動は行わない
② 技術委員会など他委員会の活動についての広報活動

Ⅴ 関係団体の取組

①国土地理院関係

・測量行政懇談会に委員として参画

・広報推進協議会に協議会メンバーとして参画

・「測量の日」東京地区実行委員会に委員として参画

・国土地理院の要請に基づく、ヒアリング・アンケート等の諸活動に積極的な対応

②日本測量協会関係

・「測量の日」実行委員会及び幹事会に委員として参画

・関東支部、総務・広報部会に委員として参画

③日本地図センター関係

・地図展推進協議会に委員として参画

④全国児童生徒作品展連絡協議会

・地図教育の一層の向上を目指し、児童生徒作品展の後援及び地調協会長賞の贈呈

⑤測量系 CPD 協議会

・協議会の構成団体として連絡会に参画